

モントリオール国際映画祭出品ドキュメンタリー映画『ビハインド・ザ・コーブ』プレス試写会



ドキュメンタリー映画『ビハインド・ザ・コーブ』のプレス試写会が8月7日、渋谷のアップリンクで開催されました。映画監督としては自身初となる八木景子（写真左）さんは、昨年3月の国際司法裁判所（ICJ）の裁定をきっかけに、ハンディカメラを携え単身捕鯨問題の取材を開始し、反捕鯨映画『ザ・コーブ』の舞台となった太地町に長期滞在。同町でイルカ追い込み漁の監視と町民への嫌がらせを続けるシーシェパードの活動家や、『ザ・コーブ』のシホヨス監督、主演のリック・オバリ氏へのインタビューを敢行。また、太地町長を始めとする地元関係や、捕鯨問題の最前線で国際交渉に当たったIWC日本政府元代表らのコメントを多数収録。

試写会の後、質疑応答が行われ、八木監督は記者からの質問に答え、「食文化への相互理解が得られない間は、戦争は決してなくならないと思う」と答え、未だ解決の糸口が見つからない捕鯨問題の本質を多くの外国人に見てもらいたいと抱負を語りました。映画は8月末ごろモントリオール国際映画祭への出品が決まっています。